



可児市立東可児中学校
令和7年8月29日発行

“あつい夏”を感じました

校長 堀田 誠

41日間の夏休みはどうでしたか？

今年も“あつい夏”でした。8月2日（土）に桜ヶ丘地区センターにて、夏祭りが開催されました。この日も猛暑日でしたが、午後4時から始まる夏祭りに多くの人が会場に集まっていました。東可児中学校の生徒もこの日を楽しみにしていたのか、多くの生徒と久しぶりに出会うことができました。「おじいちゃんに買ってもらった」と美味しそうな葡萄が入ったクレープを頬張る生徒、この日のためにお化粧をしてきた生徒、友達と屋台をめぐる生徒と様々でした。HP 用の写真に写る姿はどれも笑顔いっぱい素敵でした。その中に、東可児中学校から28名の生徒が、ボランティアとして参加していました。威勢よく声を出してくじ引きを手伝う生徒、小さな子にやさしくゲームの説明をする生徒など、とても意欲的に動く姿は、本当に頼もしい限りでした。



ユリの花がさいていました。

中学生が色々とお世話になっている関係で、本部へ挨拶に行きました。そこには、桜ヶ丘ハイツ自治連合会長の田中さんがみえました。「ご苦労様です。暑いねえ。」といったものに笑顔で迎えていただきました。会話の途中で、熱中症で倒れた方の対応をしたり、市長さんの接待をしたりと忙しそうに動いてみえました。田中さんは、日頃から東可児中の草刈りを自主的にやっていただくなど、本当に子どものために惜しげもなく尽力していただいています。また、コロナ禍で中止になっていた桜ヶ丘ハイツのお祭りを、昨年度から復活するために色々とお骨を折っていただいています。「地域の活性化」のために尽力されている「熱き想い」が、日焼けしたお顔から拝見することができます。

可児市は、名古屋市のベッドタウンとして40年ほど前から、山を切り開いて住宅が造られました。それとともに人口も急増して、現在は10万人都市となりました。30年ほど前に桜ヶ丘小学校に勤務した頃は、夏休みが終わると10～15人の転校生がいました。その頃は屋外で始業式を行っていましたが、朝礼台の前に多くの転校生が並び、一人ひとり紹介されていたことを覚えています。現在は、可児市の住宅地も高齢化が進み、空き家も多くなりました。かつては、活気のあった夏祭りも、後継者不足で開催することも難しいそうです。そんな中、地域の活性化を願い、率先して活動されている方々が、この桜ヶ丘ハイツにはたくさんお見えになります。また、次世代を担う中学生も、率先してボランティアに参加するなど、明るい将来が見える気がします。

今年の夏は暑かったですが、地域にも志をもった熱さを感じた夏祭りでした。11月2日には秋祭りがあります。きっとそこでもたくさんの笑顔があふれることでしょう。